

丹羽太左衛門先生の思い出

ここに家畜繁殖学教室の種豚が運動場で昼寝をしている腹の上に私が腰を下ろして戯れているスナップ写真が残っている。当時繁殖学教室で故登内先生の指導の下、大きな種雄豚を数頭飼育していて教材につかっていた。大隅、竹村、神野君たちと共に信州大学畜産学部家畜繁殖学教室で丹羽教授の指導を得ておりました。私は教授指導のもと「繁殖豚の形態学的研究」と称して伊那屠場で解体される繁殖豚の繁殖器官の形態を測定していました。又その豚の繁殖経験を出荷農家に出向き聞き取り調査をして繁殖経過と形態との関係を調べていました。家畜の解体現場が調査場所であり研究テーマが具体的で大変面白かった記憶があります。

丹羽先生は日本における養豚研究の第一人者であり、諸外国にもその技術を普及されておられ、当時のソ連邦にも指導に行かれており、又ソ連からも技術者が来校され欧米とは異なる人種の研究者が学内に来られていました。先生は多方面にわたって大変多忙な研究生生活をされておられたと思います。

小人数の研究室ゼミ「外書講読」で先生の指導の下、私はうっかりウトウトしてしまったことがありました。大隅君に「教授に対して失礼ではないか」と叱責されたことがあります。この時も丹羽教授からは何も言われませんでした。私がもし教授だったら若い学生に対してどうしただろうか。教室の友人が町で気炎を上げその勢いで夜間丹羽先生のお宅に押し掛けたことがありました。多忙であるはずの先生が何も指摘せず、親切に対応いただき嬉しかったとその学生が語っていました。奥様ともども若者の気持ちを尊重される姿勢を感じ尊敬いたしました。

学生の卒業後の進路についても親身になって相談に乗っていただき相手方に対する対策にもご指導をいただきました。心配りの行き届いたご指導に感謝致しました。私自身に関してはせっかく紹介いただいた仕事を全うできず、自分の希望の進路に転職しましたが先生からは一言も叱責する言葉はありません。後になって「松井君あの時辞めてよかったのかもしれないね」などと慰めの声をかけてもらったほどです。先生の優しい心配りを感じた次第です。今になってそのお人柄にもう少し接しておけばよかったと思いをはせるところです。

今信州で豚を放牧して肥育しています。サラリーマンの時から将来豚飼いができればなどと夢を持っていましたが、これも先生と繁殖学の勉強をさせていただいた影響だと思えます。先生有難うございました。

2017年5月25日

長野県北安曇郡小谷村

松井 康彦

(信州大学 農学部畜産学科 43年卒業)